

- ③ 会 場  
 県北・県中・県南・会津・相双・いわきの6地区
- ④ 研究主題  
 (統一主題) 幼稚園において、幼児が充実した生活を展開していくには、環境をどのように構成していけばよいか。  
 (分科会主題) 統一主題について、次のような観点から研究する。
- A 生活の流れに応じて、場や空間をどのように活用し構成していけばよいか。  
 B 生活の流れに応じて、園具、遊具、素材等をどのように活用し構成していけばよいか。  
 C 生活の流れに応じて、身近な自然や動植物などどのように触れ取り入れていけばよいか。  
 D 生活の流れに応じて、園内外の行事との出会いをどのように生かし展開していけばよいか。
- ⑤ 参加者数 1,006名(6地区合計)

(2) 幼稚園教育課程研究発表大会

- ① 主 催 文部省  
 ② 期 日 平成5年2月4日～5日  
 ③ 会 場  
 全体会 イイノホール(東京都)  
 分科会 オリピック記念青少年総合センター  
 ④ 本県からの参加者 8名

(3) 東部地区幼稚園教育課程運営改善講座

- ① 主 催 文部省、群馬県、群馬県教育委員会  
 ② 期 日 平成4年10月7日～9日  
 ③ 会 場 群馬県水上町 ホテル「聚楽」  
 ④ 本県からの参加者 9名

(4) 幼稚園教育指導者講座

- ① 主 催 福島県教育委員会  
 ② 期 日 平成4年8月19日～21日  
 ③ 会 場 福島県教育センター  
 ④ 受講者 50名  
 ⑤ 内 容 講義、協議、実技、演習

(5) 幼稚園実技講習会

- ① 主 催 文部省、福島県教育委員会  
 ② 期 日 平成4年7月27日～30日  
 ③ 会 場 福島大学教育学部  
 ④ 受講者 49名  
 ⑤ 内 容 保育内容に関する科目「人間関係」付与単位 1単位  
 ⑥ 講 師 福島大学教育学部 教授 西久保禮造

(6) 福島県幼稚園新規採用教員研修

- ① 主 催 文部省、福島県教育委員会  
 ② 会 場 福島県郡山少年自然の家  
 各教育事務所が定めた所  
 勤務園  
 ③ 日 数 園外研修(義務教育課の計画) 4泊5日  
 " (教育事務所の計画) 5日間  
 園内研修(勤務園の計画) 10日間  
 ④ 参加者数 公立幼14名、私立幼118名 計132名

- ⑤ 研修内容 講義…教員としての心得 他  
 演習…週日案の作成 他  
 協議…幼児の行動のとらえ方 他  
 実技…リズム表現、歌遊び 他  
 保育参観…先輩の先生方の保育参観 他  
 実習…保育実習 他

(7) 幼稚園教育指導資料の作成配布

- ① 名 称 「望ましい指導のために」  
 ～幼児の発達する姿から～  
 ② 作成委員 幼稚園長・教諭及び指導主事 9名  
 ③ 作成計画 5年計画  
 1年次 教育課程の編成  
 2年次 指導計画の作成  
 3年次 指導の在り方  
 ①幼児の発達の姿から  
 4年次 ②環境の構成と幼児の活動から  
 5年次 ③教師の役割から

8 へき地教育

本県におけるへき地学校は、県全体の小・中学校別の総数に対して、小学校229校で42.2%、中学校76校で31.1%を占め、小・中学校総数に対して36.4%の割合となっている。

このへき地、山村、過疎地域の教育の振興を図るため、下記の事業を実施した。

(1) へき地教育担当教員研修会

- ① 期 日 平成4年8月5日～8月7日(3日間)  
 ② 主 催 福島県教育委員会  
 ③ 会 場 福島県教育センター  
 ④ 講 師 前福島市立土湯小学校長 沼田 良  
 ⑤ 参加者数 73名

(2) 中学校免許外担当教員研修会

- ① 期 日 平成4年6月3日(水)～5日(金)  
 平成4年6月8日(月)～10日(水)  
 ② 主 催 福島県教育委員会  
 ③ 会 場 福島県教育センター  
 ④ 講 師 福島大学教授及び高等学校教諭  
 ⑤ 実施教科 音楽、美術、技術・家庭  
 ⑥ 参加者数 音楽5名、美術24名、技術29名、家庭38名 計96名

(3) へき地教育研究指定校

～指定校と研究主題～

学 校 名	校長氏名	研 究 主 題
猪苗代町立 吾妻第二小学校	栗城 好次	「児童ひとりひとりが基礎 学力を身につける指導」 一個に応じた自力解決の 場の設定において一

(4) 東部地区へき地教育指導者講座

- ① 主 催 文部省、福井県教育委員会及び関係市町村  
 教育委員会  
 ② 期 日 平成4年11月25日(水)～11月27日(金)